

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予察注意報第5号（ジャガイモの疫病）を発表しましたので、送付します。

病虫害発生予察 注意報第5号

- 1 農作物名 ジャガイモ
- 2 病虫害名 疫病
- 3 予報内容
  - (1) 発生地域 県本土，熊毛
  - (2) 発生量 多

4 情報の根拠

- (1) 3月1日～3日の調査では、発生ほ場率が38%と高く、生育の早い作型では発生程度の高いほ場も一部で認められた（表1）。
- (2) その後南薩地域でも発生を認め、現地からの情報では各地区で発病が増加している。
- (3) 本病は平均気温が18～20℃で曇雨天が続くと多発しやすい。2月下旬以降降雨日が多く（2月下旬～3月上旬の降水量としては過去20年間で最も多い）、気温も高く推移しているため、発病しやすい条件が続いている（図1）。
- (4) 向こう1か月の天候は、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は高いと予報され、今後も発病しやすい条件が続くと予想される。

表1 疫病の発生状況 調査日：3/1～3

地 域	調査ほ場数	程度別発病ほ場数				調査地点	
		甚	多	中	少		
北 薩	6				5	5	長島町
南 薩	9					0	指宿市開聞**
大 隅	6			1*	2	3	南大隅町・錦江町
計	21			1	7	8(38%)	

注) ( ) は発生ほ場率，\*は3月収穫予定の生育の早いほ場\*\*はその後の調査で発生を認めた

5 防除上注意すべき事項

- (1) 発生ほ場では治療効果や残効性の期待できる薬剤（表2参照）を7～10日おきに散布する。
- (2) 未発生ほ場では、防除は降雨前の予防散布に重点をおく。
- (3) 茎葉に病斑が多いと塊茎部への感染が広がるので防除を徹底する。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (5) 排水の悪いほ場では多発しやすいので、排水対策を十分行う。
- (6) 収穫残渣は次作の伝染源となるので、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

(参考)

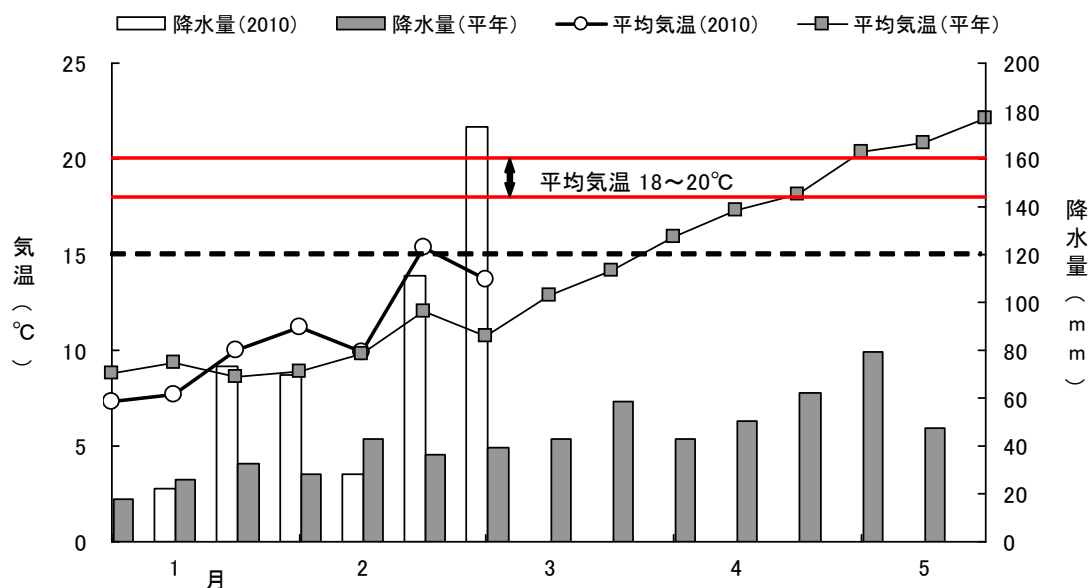


図1 2010年の平均気温、降水量と平年との比較(観測地:鹿児島市)

表2 ジャガイモ疫病の主な防除薬剤の特徴

農薬名	成分名	系統名	治療効果1)	浸透移行性2)	葉内浸達性3)	残効性
プロポーズ顆粒水和剤	ベンチアハリカルブイゾプロピル・TPN	混合剤	○	○	○	◎
フロンサイド水和剤	フルジナム	その他				○~◎
ホライズンドライフロアブル	シメキサル・フェキサトドン	混合剤	○		○	○
ライメイフロアブル	アミスプロム	その他			○	◎
ランマンフロアブル	シアゾファミド	その他			○	◎
リライアブルフロアブル	フロピコリト・プロパモカルブ塩酸塩	混合剤	○	○	○	○~◎
レーバスフロアブル	マンジプロパミド	その他			○	◎

注) ○: 高い, ◎: 特に高い

1) 感染後も効果があるが、効果持続期間は1日程度であるので本効果を過信しない。

2) 茎葉に付着した薬剤成分が吸収され、植物体内移動により上位葉にも効果が現れる効果。

3) " " が内部に浸透する性質。



写真1 茎葉での発生(要注意)